

地域運動 最前線

20地区協議会

Vol. 7

連合大阪の5地域協議会に所属する20地区協議会。「地域に根ざした顔の見える連合大阪運動」を最前線で担う、その活動を紹介する。

大阪市地域協議会

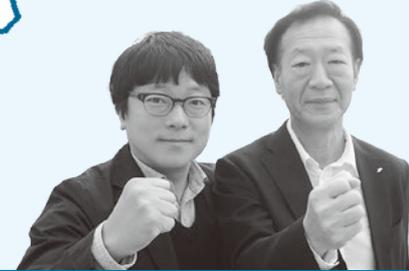
港西なにわ地区協議会

役員構成 10構成組織 16単組 役員数26人

担当行政区 大阪市(浪速区、港区、西区)

主な街宣スポット

浪速区 なんばパークス前



- 議長 入江 寛 (JP労組 日本郵政グループ労組) ㊤
- 事務局長 瀧川 敏史 (自治労 大阪市職員労働組合) ㊤

10周年記念事業で企業見学 行政に協力する取り組みも

港西なにわ地区協議会は、毎月の幹事会に加え、企業見学、異業種交流、ボランティア、1泊幹事会、学習会、政治活動などに取り組んでいます。2017年には、「みまもりタグアプリ」

活動、また10周年記念事業として、家族で参加できる企業見学&バーベキュー、記念タオル作成を行いました。

「みまもりタグアプリ」活動は、小学校の校門や区域内に設

置された定点検知器とスマートフォンに入れた「みまもりタグアプリ」による検知機能を利用して、専用の小型発信器を持った小学生の位置情報を確認できるシステムです。行政から地区協議会に協力依頼があり、幹事会で取り組みを決定。スマートフォンを持っている組合員に「みまもりタグアプリ」を入れてもらうことで、そのスマートフォンを中継して保護者が子どもの位置履歴情報を確認することができます。

10周年記念事業は、役員OBや役員家族にも参加を呼びかけて、消防車を作っている株式会社モリタの企業見学を実施しました。消防車が並んでいる姿は圧巻でした。今後も参加者が「参加して良かった」と感じる活動を続けていきます。

▶10周年記念イベントで「モリタ」を見学。消防車の製造について説明を受けた



港西なにわがめざすもの

社会的意義を高めるために

港西なにわ地区は、連合運動を通じて地域における、労働組合の社会的意義を高めることをめざしています。そのために心がけていることは「地区役員の結束」と「顔の見える活動」です。

活動の原動力である「地区役員の結束」を高めるためには、役員自身が楽しみながら参加できる活動

であること、そして、参加した全員が楽しむ活動ができれば自ずと結束は高まると考えています。

「顔の見える活動」は難波パークス前で行っている街頭行動です。「不当な条件で働くことを強いられている方、労働組合が無い職場で働く方」などに対して労働組合の必要性を訴えています。他にも、行政から依頼のあった「災害時の津波避難ビルの指定」「みまもりタグアプリ」への協力など、地区独自の活動にも積極的に取り組んでいます。